

課題名：分子ロボット技術の社会実装に関するRRIコミュニケーション実践の企画調査

代表者：小宮 健（東京工業大学 情報理工学院 助教）



参画機関：東京工業大学, 恵泉女学園大学, 大阪大学, 九州大学病院, 北海道大学 など

課題概要

本研究における最終的な達成目標は、分子ロボットの野外活用を中心的な事例としながら、革新的科学技術が社会になじむための新しい「研究者の自治」と「研究者自身が参加する持続的な科学コミュニケーション」の在り方を提示することである。そのため、分子ロボットの研究開発における「上流からの対話」と指針づくり、そして持続的なコミュニケーション実践の場づくりと、より良い研究活動のためのロードマップ作成を行い、その過程を通じたELSIの分析を行う。とりわけ、分子ロボット技術のフィールドでの活用を目指している事例に注目し、地域における社会的対話実践の試行とヒアリング、ならびに科学館等との協働などを想定した持続的なコミュニケーションのための資料素案の作成とその活用方法の検討を通じて、本企画調査において研究開発プロジェクト実施に向けたフィージビリティスタディを行う。

ポイント

本研究の1つ目のポイントは、国内外のこれまでの「上流からの市民参加」事例と比較しても、より上流からの対話実践を試みている点にある。研究開発が進んだ引き返せない時点から始まる“説得”のコミュニケーションから、将来像を共創し、ときに引き返すこともあり得る”対話”への転換を模索する。2つ目は、過去の多くの事例と異なり、対話実践の主体が社会学者ではなく、あくまで当該技術の研究者コミュニティが能動的かつ自律的に行うものであり、さらに“将来の研究者”である大学学部生までも含むコミュニティである点にある。今後の研究者の自治の在り方にモデルを提示することを目指している。

